

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

- (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

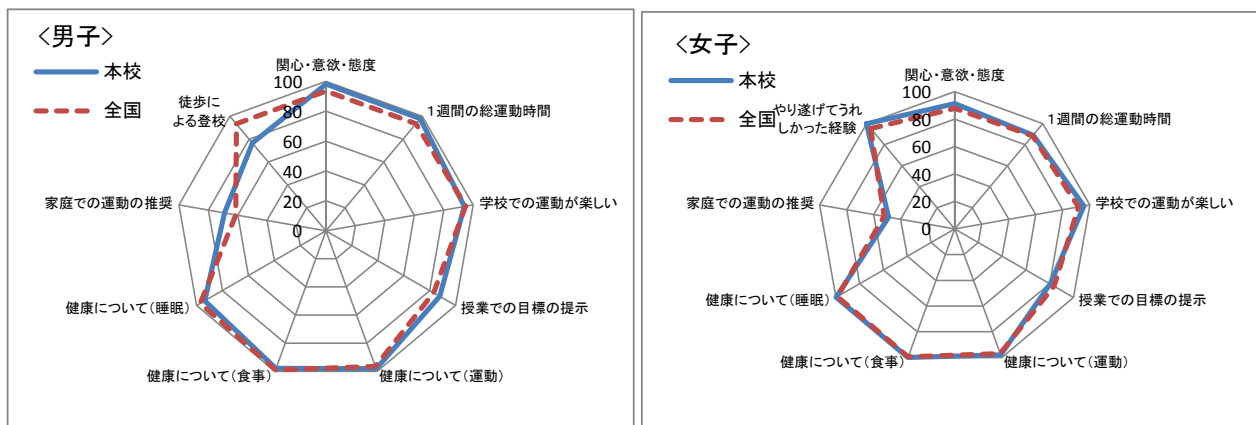
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42	53.92
本市	16.78	19.79	31.93	41.14	51.08	9.41	151.32	23.82	53.77
全国平均以上の種目	○	○		○	○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	145.31	13.88	55.54
本市	16.48	18.34	35.88	39.07	40.17	9.67	145.18	13.97	54.74
全国平均以上の種目	○			○	○	○			○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

本校児童は、運動・スポーツの好きな児童や毎日平均1時間以上の運動をしている児童、物事を最後までやり遂げてうれしかった体験のある児童の割合が、全国平均より高く、体力合計点の高い児童との相関関係が深かった。全国平均を上回っている種目は多いが、男女ともに、柔軟性等に課題があるため、体育の時間の初めに効果的な準備運動を取り入れたり、休み時間の外遊びを推奨したりして、体を動かしている。学校生活において、日常的に体を動かし、体力を高めていることが考えられる。学校行事では、水泳や持久走記録会に対して意識の高い児童が多く、目標をもって取り組んでいる。また、体育の時間に、先生や友達のまねをしたり、友達に教わったりして、できるようになった体験がある児童の割合が高く、良好な人間関係がうかがえる。しかし、TV・ビデオ・DVD・ゲーム等に3時間以上費やす児童や自家用車で登校している児童の割合が、全国平均よりかなり高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育主任が中心となって、児童の実態に応じた準備運動を紹介・充実させたり、平和ヶ丘の更なる活用を図ったりする。体育科の時間の終末に、振り返る時間を確保するとともに、次時の学習や日々の生活・遊びの中に生かし、更なる体力向上を図ることができるようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

休み時間の外遊び推奨を一層図るとともに、児童・教師間、児童間の良好な人間関係を生かし、最後までやり遂げてうれしかった成功体験を体育科の学習でも重ねていくことができるようにする。今後も、通信や懇談会等を通じて、TV視聴・ゲーム等の時間の約束や家庭での学習習慣の定着について、具体例を示しながら啓発していく。また、徒歩による登校を呼びかけ、日常的な体力向上の一環としての登下校の在り方を理解していただくように努める。